

2018年日本地理学会春季大会公開講座
「地理総合」に関する講習会

「地理総合」 とは どんな科目か？

日本地理学会地理教育専門委員会

**この資料(試案)は、「地理総合」実施に向けた
研修会用資料として作成したものです。
修正・改善すべき点、追加すべき資料など
について、下記まで忌憚のないご意見をお寄せ
ください。**

**日本地理学会地理教育専門委員会
office@ajg.or.jp**

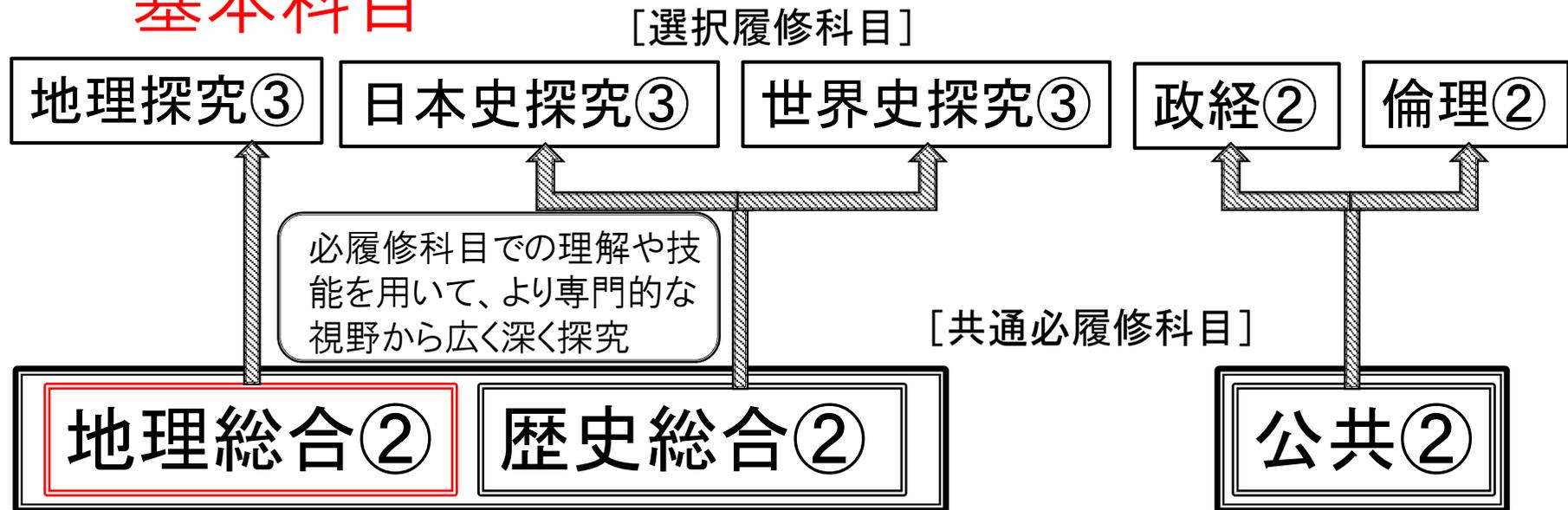
※タイトルに地理教育専門委員会宛であることの明記をお願いします。

地理歴史科新科目「地理総合」の概要

□ 社会科・地理歴史科で初の**必修修地理科目**

昭和53年版(57年4月)で実質必修修廃止、平成元年版(4年4月)世界史のみ必修修

□ 「歴史総合」・「公共」とともに地歴・公民科の
基本科目



※○数字は単位数。各科目の履修学年の指定はない。

地理歴史・公民科の科目構成

□ 2単位(年間70時間)で実施される科目

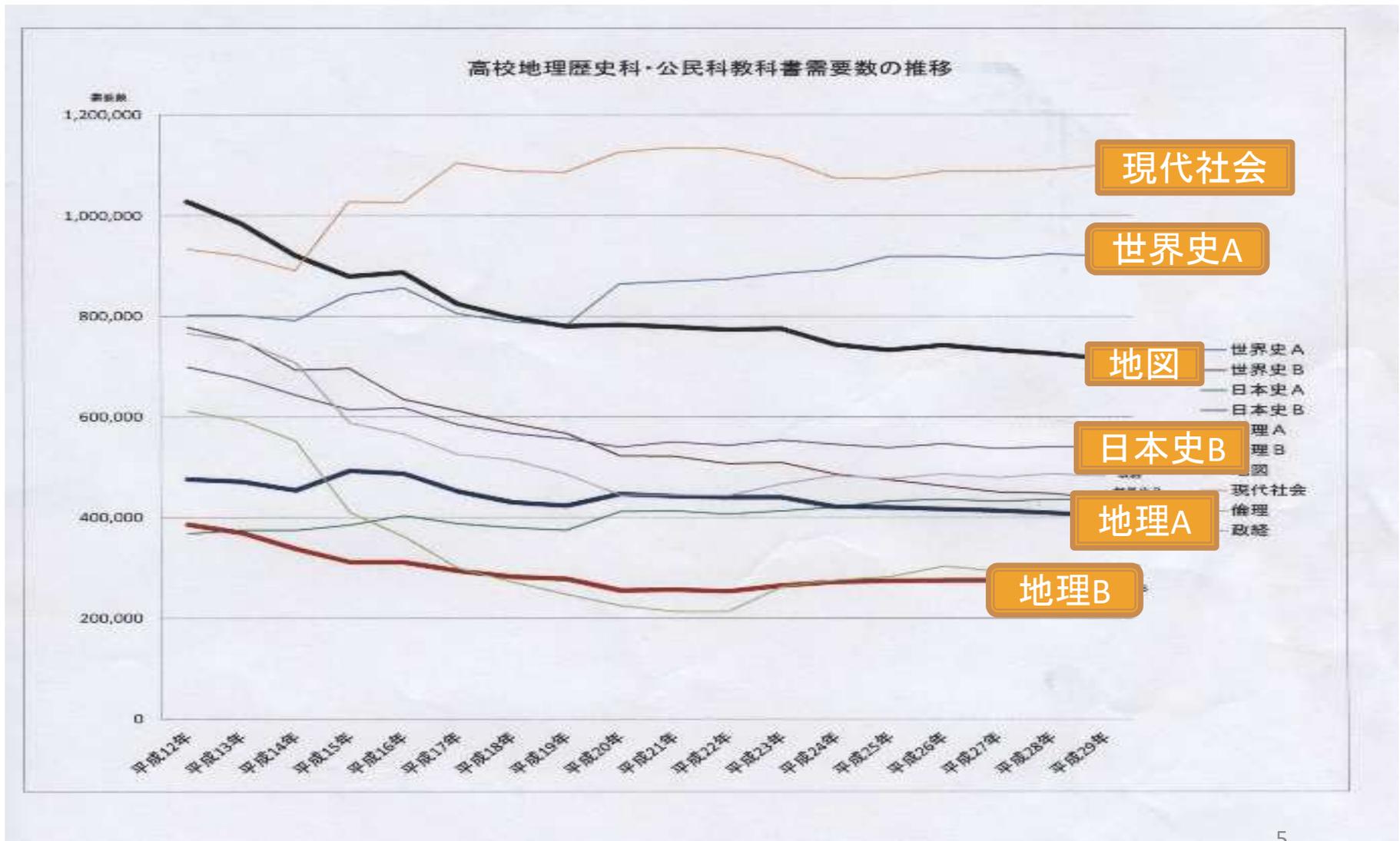
実質的な授業時間は65時間前後か

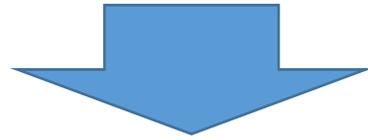
□ 2022年度(現在の小学校5年生)から学年進行で実施・2025年からの大学入試で出題？

□ 「グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成(地理歴史科の目標)」する一端を担う科目

「地理総合」設置の背景

□ 現状の地理系科目履修者は約50%





- 地理の知識が少ないままに世界史、日本史などを受けることの弊害。
- 必修修「世界史」などの未履修問題(2006年秋)
- 市民として必要な空間認識の欠如
(日本地理学会地理認識調査2003,07,13年)



- 日本学会提言(2011年8月)
『新しい高校地理・歴史教育の創造』
 - ・ 国民の教養としての地理と歴史
 - ・ 時空間認識のバランス
 - ・ 高校地理歴史教育の改善の必要性

□ 地理の(必履修)科目への要請

- 生活上の実用性・有用性

地理空間情報の活用によって、それらを的確な判断や意思決定の支援ツールとして効率的な生活が営むことができる。

- 教養と民主的で平和な国際社会の担い手

基礎的な地誌、系統地理の知識に基づき、生活文化の多様性を踏まえた国際理解と地球的課題を踏まえた国際協力を考える。つまりESDの観点に基づいた社会づくりの視点を持つ。

- 地域(社会)の有為な形成者

自然災害などから自分や家族、共同体、社会をどのように守るか(自助、共助、公助)を自然のメカニズムから総合的に考えることができ、状況を判断して行動する力を身に付ける。

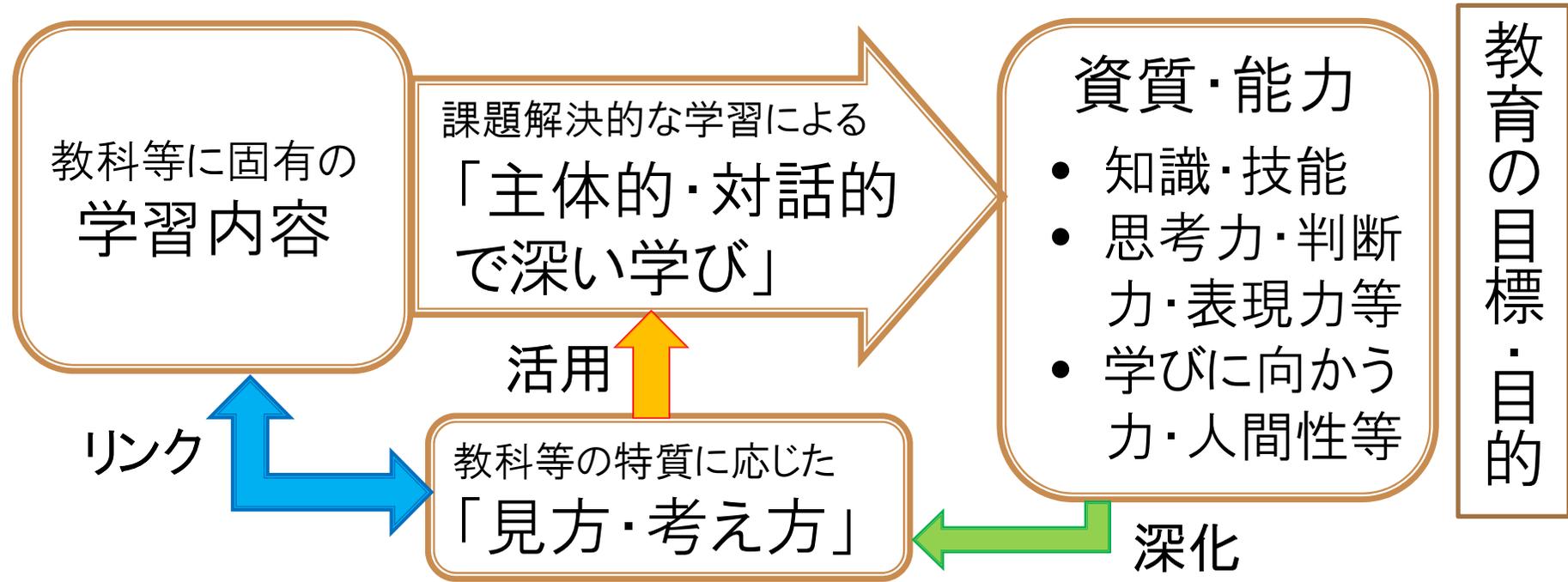


「地理総合」として具体化

次期学習指導要領の基本的な考え方 と「地理総合」の目標

◆ 「学びの地図」としての学習指導要領

「何を学ぶか」 「どのように学ぶか」 「何ができるようになるか」



◎ 小学校～高校まで、全ての教科等で明示

➤ 「何を知っているか」から「何ができるようになるか(資質・能力の育成)」への転換

□ 「資質・能力の三本柱」

思考力・判断力・表現力など

知識・技能

学びに向かう力・人間性など

➤ 「どのように学ぶか」という学びの質の重視

□ 「主体的・対話的で深い学び」

- 主体的な学び…学ぼうとする意欲
- 対話的な学び…コミュニケーションに基づく協調性
- 深い学び…知識や技能に基づく思考力・判断力・表現力など

- 「どんな視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくか(見方・考え方)」の具体化
 - 社会科、地理歴史・公民科の特質に応じた「社会的な見方・考え方」
 - 育成すべき資質・能力(思考力)の中核
 - 課題解決的な学習における「視点や方法」



これらが「地理総合」では、
どう具体化されているのか？

◆「地理総合」の目標

「何を学ぶか」

「どのように学ぶか」

「何ができるようになるか」

A 地図や地理情報システムで捉える現代世界

B 国際理解と国際協力

C 持続可能な地域づくりと私たち

課題を追究したり解決したりする活動

活用

「広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に生きる平和で民主的な国家及び社会の有意な形成者に必要な公民としての資質・能力」を身に付けることができる。

「地理総合」で育成すべき資質・能力

リンク

地理的な見方・考え方

深化

◎「資質・能力の育成」と「地理総合」

R

- 世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などの理解
- 地図やGISを用い、地理的な情報を調べまとめる技能

- 地理的な事象を多面的・多角的に考察する力
- 地理的な課題の解決に向けて構想する力
- 考察、構想したことを説明したり、議論したりする力

- 地理的な課題を主体的に追究、解決しようとする態度
- 日本国民としての自覚
- 我が国の国土に対する愛情
- 世界の多様な生活文化を尊重しようとする大切さの自覚

◎「社会的な見方・考え方」と「地理総合」 R (地理的な見方・考え方)

- 位置(の規則性)・分布(パターン)
 - * 一般的共通性を追究
- 場所(その場所の自然や人文的特性)
 - * 地方的特殊性の追究
- 地人相関(自然と人間生活の関連性)
- 空間的相互依存作用(地域間の結びつき)
- 地域(空間的に意義のある範囲)
 - * 時間的に、かつ自然、経済、文化などにより、その範囲は変化

○国際地理学連合地理教育委員会「地理教育国際憲章」(1992年)による

◎「主体的・対話的な学び」と「地理総合」

- 主題的な学習、課題解決的な学習によって、「主体的」な学びを喚起
 - 地図との対話、フィールドでの対話、グループでの対話などを通じて、「対話的」に学び
- 
- 知識や技能(地域調査、諸資料の読取り、地図作成)を基に、地理的見方・考え方を活用して、国際理解や国際協力、防災、持続可能な社会づくりにおけるさまざまな課題の解決を図ろうとする(未来を志向する)ことで、「深い学び」を実現

「地理総合」の内容

□ 三つのテーマによる内容構成

地図・
GIS

A 地図や地理情報システムで捉える現代世界
(1) 地図や地理情報システムと現代世界

ESD

B 国際理解と国際協力
(1) 生活文化の多様性と国際理解
(2) 地球的課題と国際協力

防災

+

ESD

C 持続可能な地域づくりと私たち
(1) 自然環境と防災
(2) 生活圏の調査と地域の展望

□ A-(1) 地図や地理情報システムと現代世界

〔学びの地図〕

〔資質・能力〕

〔学習内容〕

- 現代世界の様々な地理情報
- 現代世界の地域構成
- 地図や地理情報システム(GIS)

〔学習活動〕

現代世界の地域構成を示した地図や生活圏の中の地図の読図
主題を設定し、課題を追究したり解決したりする活動

- 方位や時差, 日本の位置と領域, 国内や国家間の結び付き
- 地図や地理情報システムの役割や有用性
- 地理情報を収集し, 読み取り, まとめる技能
- 世界的視野から見た日本の位置, 国内や国家間の結び付きなどを多面的・多角的に考察し, 表現する力
- 目的や用途, 内容, 適切な活用の仕方などを多面的・多角的に考察し, 表現する力

リンク

活用

位置や範囲、分布、縮尺
〔地理的な見方・考え方〕

深化

[ポイント]

- 習得した地理的スキルや知識の、大項目B・C(2)(3)での活用を見通した学習
- 地理情報システム(GIS)を幅広く捉えた学習
(GIS=PC活用ではなく、GISの原理を基に地図を使った考察、分析が重要)
- 地理情報の収集, 選択, 処理, 諸資料の地理情報化や地図化などの作業的で具体的な学習
- 教員が活動のきっかけを与える学習
(生徒の方がデジタル地図などを使いこなせる)

[事例1—地図や地理情報システムと現代世界]

(獨協大学・秋本弘章先生提供)

「学び」のツールとしてのGIS

地図教育からの発展

地理的な見方・考え方の育成

スケール概念

空間規模 事象 営力

大地形 島弧系 内的営力

小地形 氾濫原 外的営力

地理院地図では ズームレベル

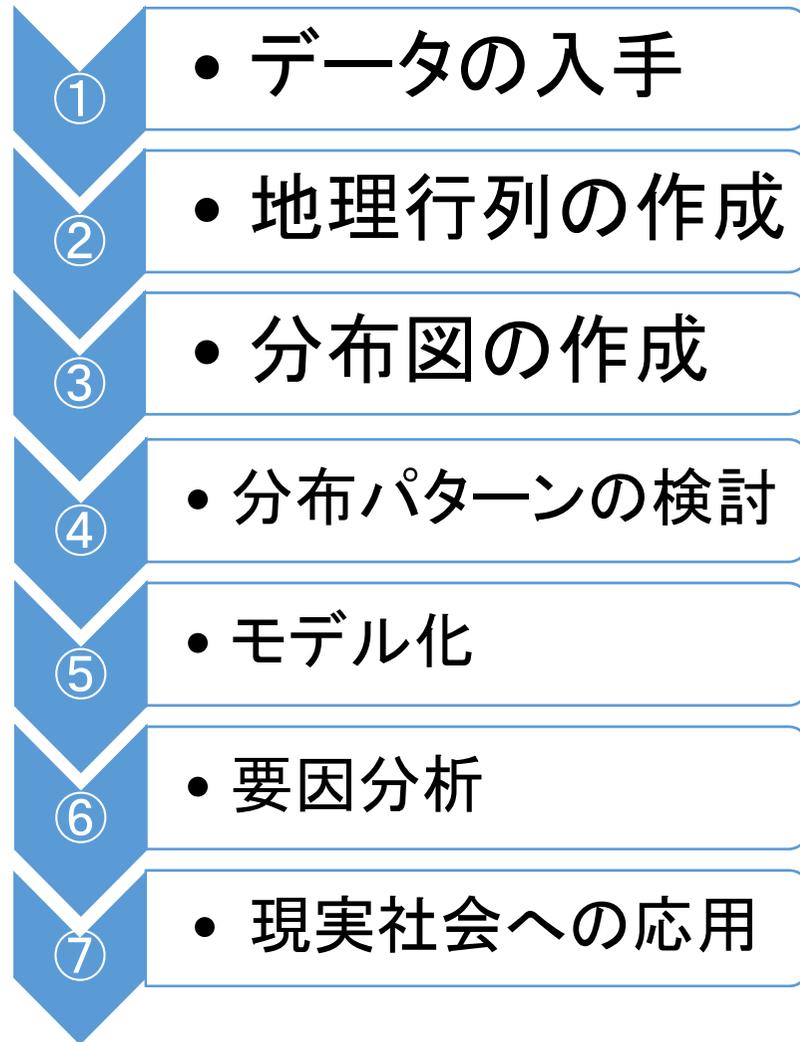
地理的事象の発見 空間探索

空間的規則性・傾向性 距離測定 バッファ ボロノイ

環境条件とのかかわり オーバーレイ

他地域との結びつき ネットワーク

地理的分析の流れ



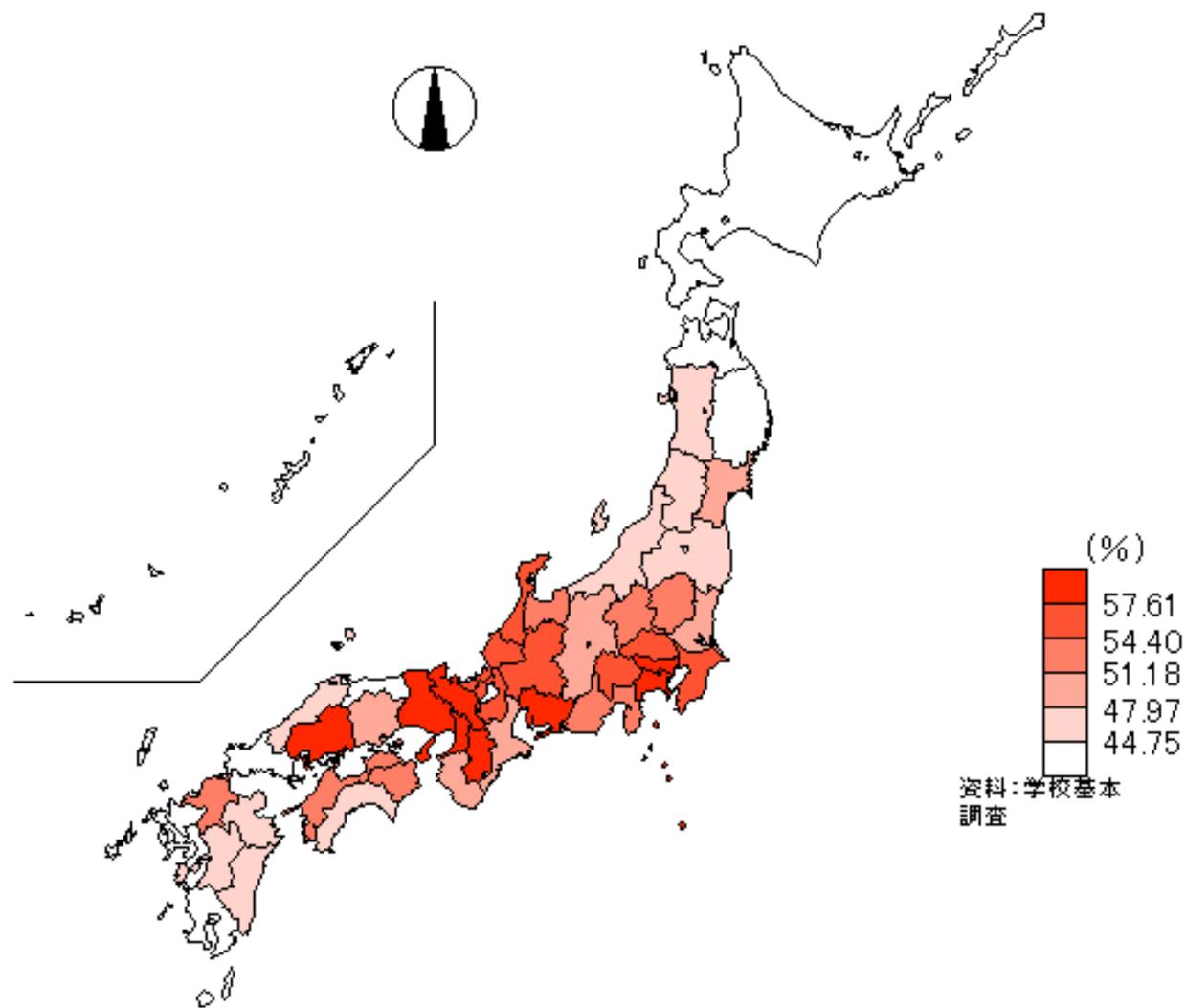
課題:日本の教育問題

学校基本調査

集中

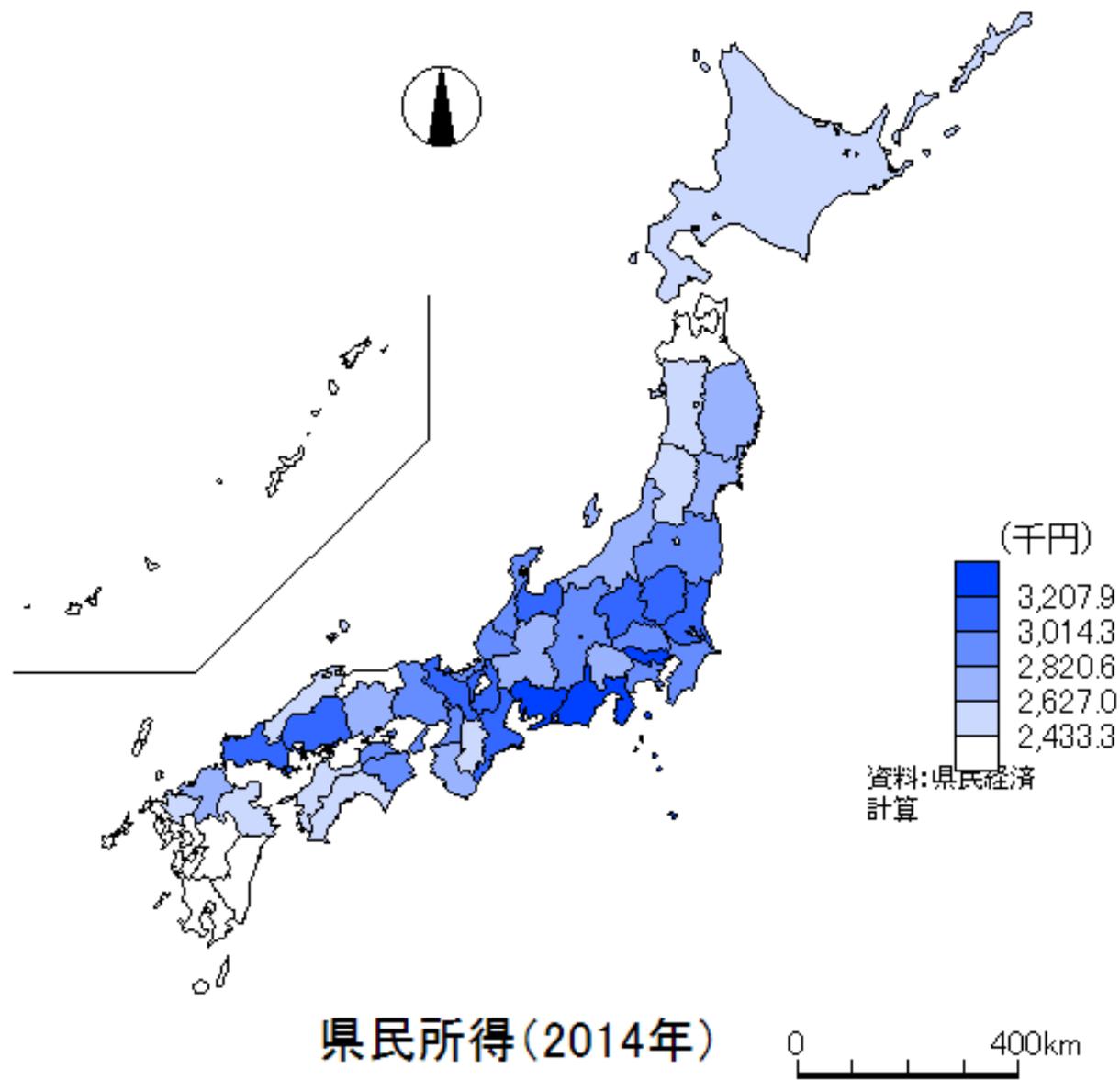
都市圏と地方

経済格差? ⇒ 県民所得
分布の比較



大学等進学率(2017年)

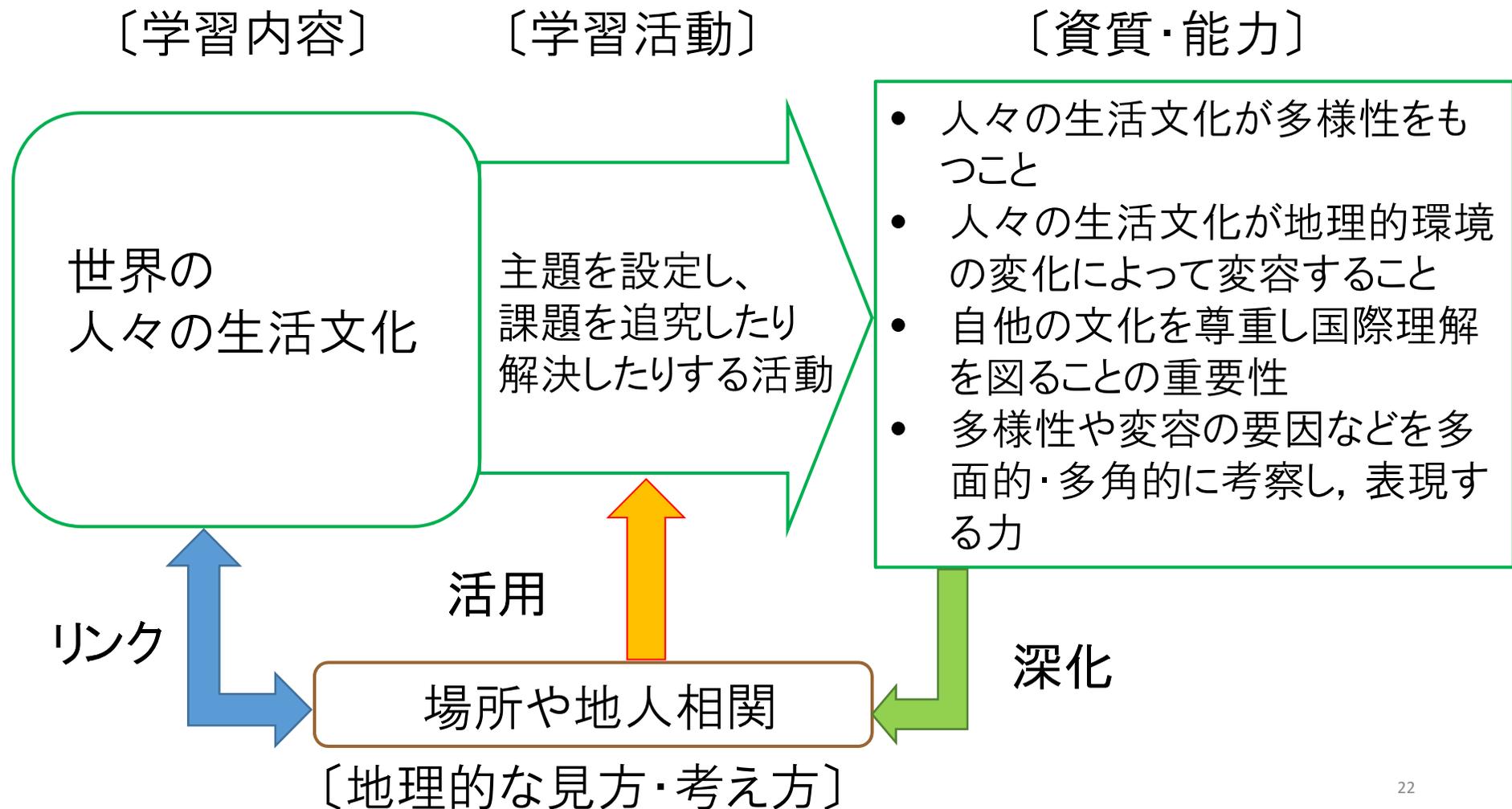
0 400km



県民所得(2014年)

□ B-(1) 生活文化の多様性と国際理解

[学びの地図]



[ポイント]

- (Bに共通して)中学校での地誌、系統地理の学習成果を活用した**主題的な方法**の学習
- 各地域の生活文化の**網羅・羅列**ではなく、**主題と事例地域とを適切に組み合わせ**た学習
- (自然)**環境決定論に陥らない**ように留意した学習
- 自他の文化を尊重して**国際理解**を図ることの重要性を学ぶ学習

【次期中学校社会科地理的分野「内容」】(一部を抜粋)
(「世界各地の人々の生活と環境」では)人々の生活や変容を基に世界の人々の生活や環境の多様性を理解すること。

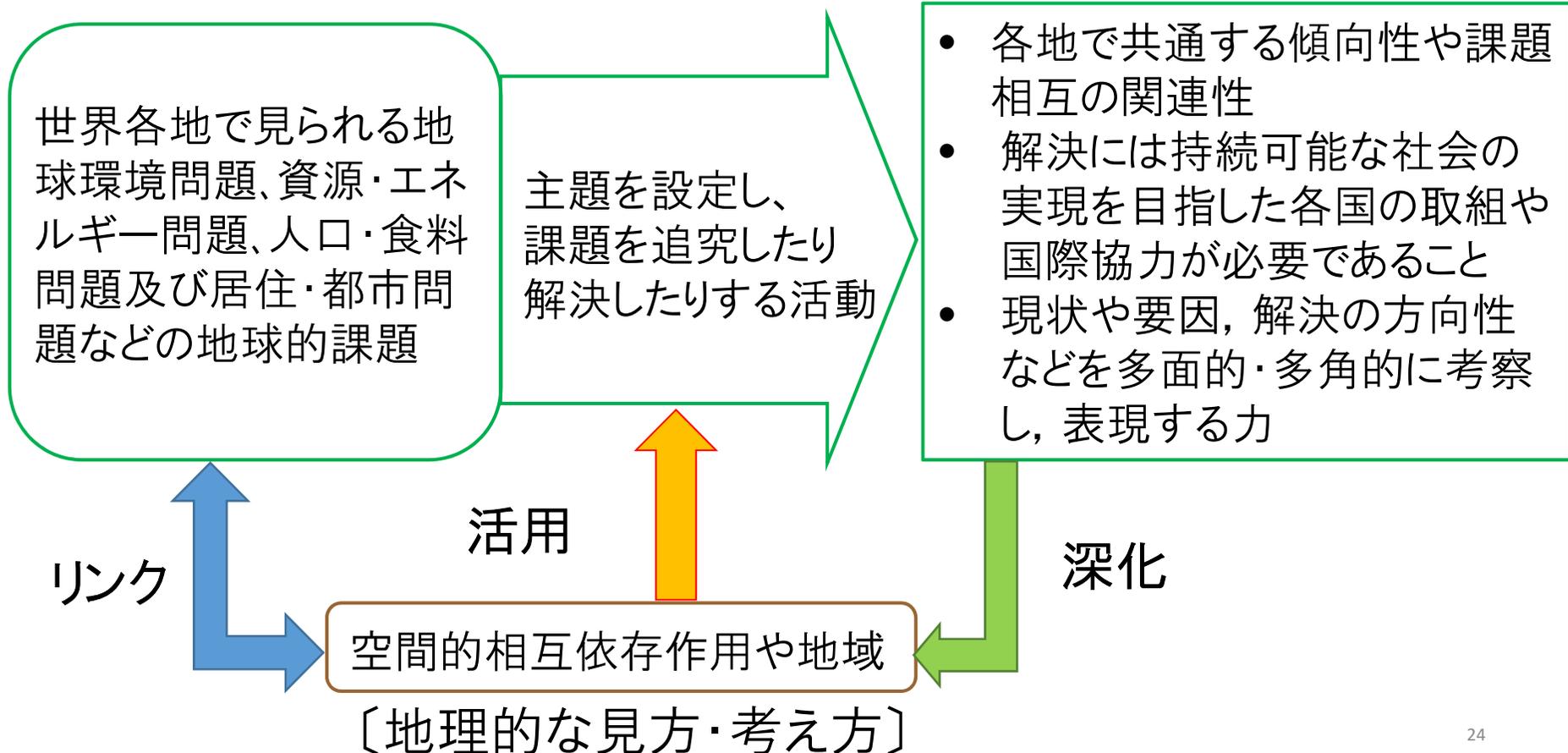
□ B-(2) 地球的課題と国際協力

[学びの地図]

[学習内容]

[学習活動]

[資質・能力]



[ポイント]

- (Bに共通して)中学校での地誌、系統地理の学習成果を活用した**主題的な方法**の学習
- 地球的課題は**SDGsの17の目標**とも関連付けて学習
- (中学校地理的分野の「世界の諸地域」で地球規模の諸課題を学習することを踏まえ)解決の考察とくに**国際協力の在り方**に**焦点化**して学習

【次期中学校社会科地理的分野「内容の取扱い」】(一部を抜粋)
(「世界の諸地域」で)州ごとに設ける主題については, …(略), そこで特徴的に見られる地球的課題と関連付けて取り上げること。

参考：地球的課題とSDGsとの関連

持続可能な開発目標(SDGs)の詳細

目標1 (貧困)	あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる。
目標2 (飢餓)	飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する。
目標3 (保健)	あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。
目標4 (教育)	すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する。
目標5 (ジェンダー)	ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う。
目標6 (水・衛生)	すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する。
目標7 (エネルギー)	すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する。
目標8 (経済成長と雇用)	包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する。
目標9 (インフラ、産業化、イノベーション)	強靱(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る。
目標10 (不平等)	各国内及び各国間の不平等を是正する。
目標11 (持続可能な都市)	包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する。
目標12 (持続可能な生産と消費)	持続可能な生産消費形態を確保する。
目標13 (気候変動)	気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる。
目標14 (海洋資源)	持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する。
目標15 (陸上資源)	陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する。
目標16 (平和)	持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する。
目標17 (実施手段)	持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する。

(外務省HP「SDGs」より引用)

人口・食料問題

地球環境問題



資源・エネルギー問題

居住・都市問題

[事例2—地球的課題と国際協力]

(筑波大学附属坂戸高校・今野良祐先生提供)

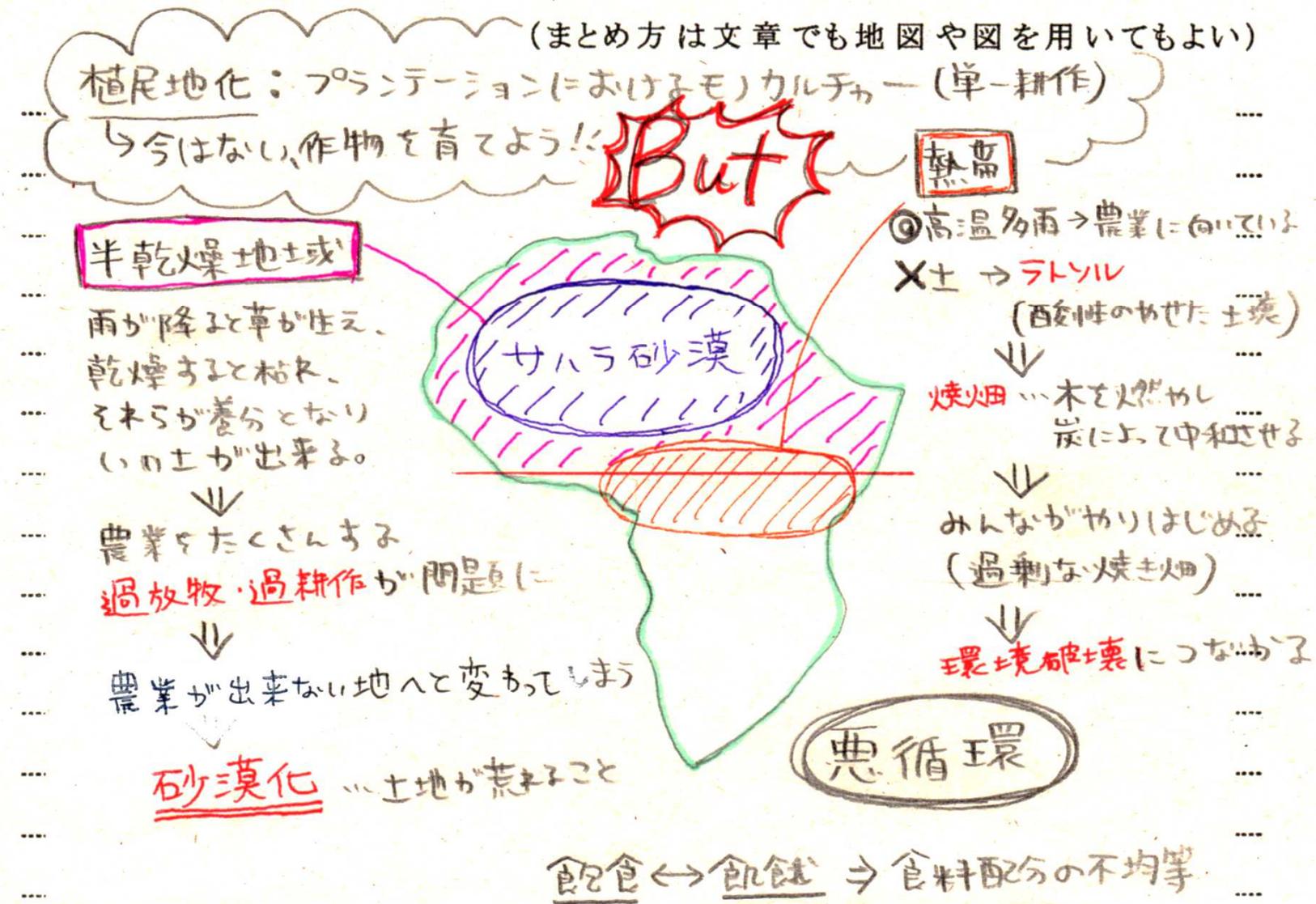
主題：なぜサヘルは「飢餓ベルト」と呼ばれるの？

- サハラ砂漠の縁辺部の半乾燥地域に位置し、かつては緑の「岸辺」と呼ばれていた。
- ところが、今や砂漠化に瀕し、森林の恵みを失い、住民を慢性的な食糧不足に追いやっている。
- 自然的要因？人間生活？



NPO法人緑のサヘル
<http://sahelgreen.org/sahel/>より

生徒作成のまとめの図



□ C-(1) 自然環境と防災

〔学びの地図〕

〔学習内容〕

- 地域性を踏まえた防災
- 自然災害に対応したハザードマップや新旧地形図などの地理情報

〔学習活動〕

主題を設定し、
課題を追究したり
解決したりする活動

〔資質・能力〕

- 地域の自然環境の特色と自然災害への備えや対応との関わり
- 自然災害の規模や頻度，地域性を踏まえた備えや対応の重要性
- 日常生活と結び付いた地理的スキル
- 地理情報を収集し，読み取り，まとめるスキル
- 自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し，表現する力

リンク

活用

地人相関や地域

深化

〔地理的な見方・考え方〕

[ポイント]

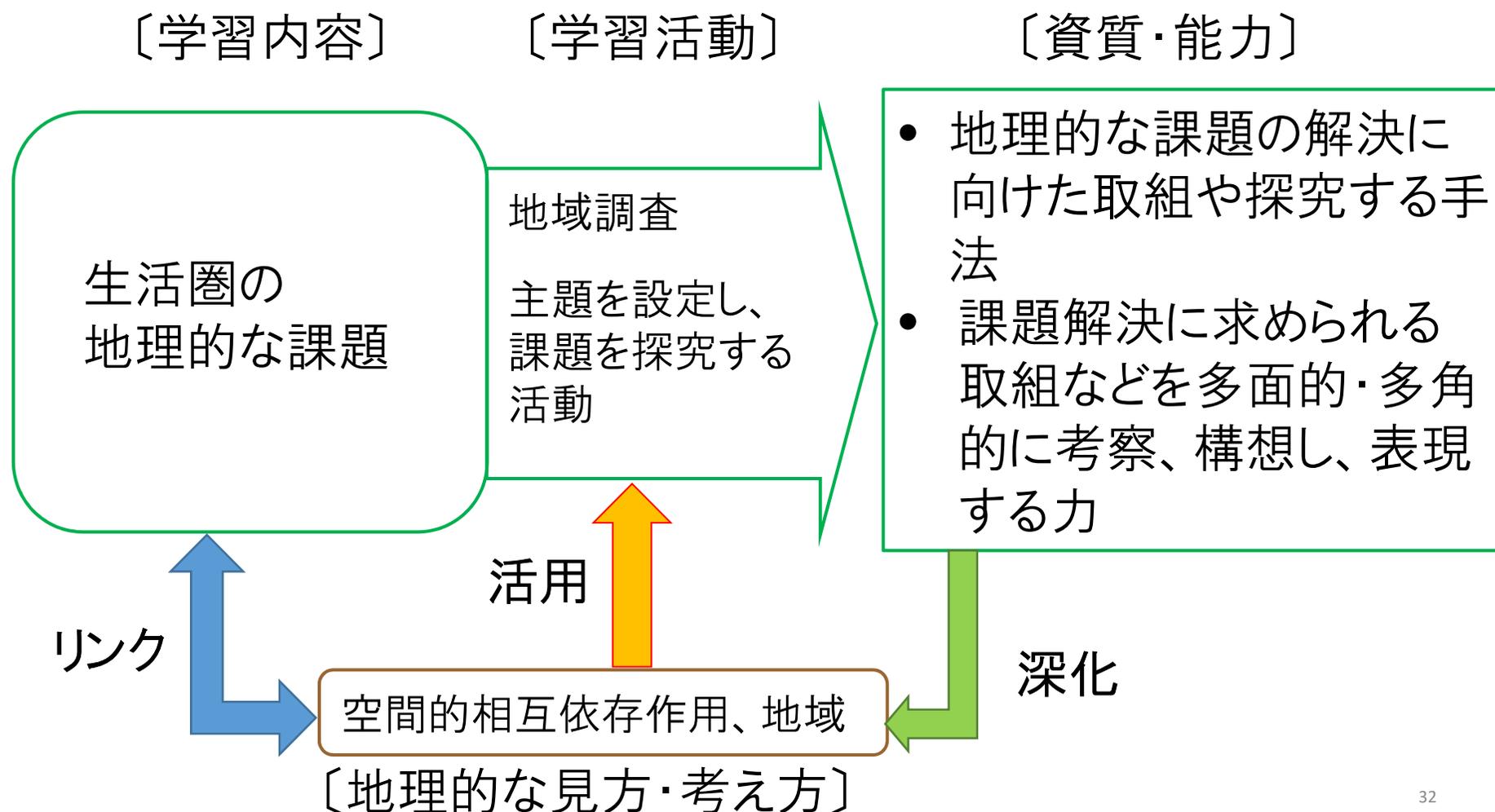
- (Cに共通して)防災を意識しながら、地域の**現状の理解**と地域の**未来像を志向**した学習
- **世界各地**の自然災害を踏まえての、自然環境や防災に関する学習

【次期中学校社会科地理的分野「改訂の要点」】(一部を抜粋)
(「日本の様々な地域」では)事例対象地域として生徒の生活圏における自然災害や防災を取り上げ、学習を深める(略)。

- **生徒たちが、将来の防災・減災対策の主体**であることを基盤にした学習

□ C-(2) 生活圏の調査と地域の展望

[学びの地図]



[ポイント]

- (Cに共通して)防災を意識しながら、地域の現状の理解と地域の未来像を志向した学習
- 中学校「社会」やこれまでの学習を踏まえ、さらに地域調査の実施などで、多面的・多角的に現実を見据えた社会づくりを構想する学習
- 資料に基づいて将来の地域のあるべき姿を議論してまとめたり、その結果を表現して共有したりするような場面を取り入れた学習

[事例3ー自然災害と防災]

(専修大学松戸高校・泉貴久先生提供)

- 日本列島と身近な地域を事例にした防災・減災学習
- 災害の種類とそのメカニズムについての深い理解を踏まえた、持続可能なまちづくり、くにづくりへの提言と社会参画を意図している。
- 第7回土木と学校教育フォーラム模擬授業ワークショップ(2015年8月30日 於 土木会館)にて公表済み。

日本と生活圏を事例にした防災・減災学習の授業実践プラン 「自然環境と防災」(全10時間)

単元目標

- ① 資料の分析を通して、日本列島の自然環境の特性について、地形、気候の両面から理解するとともに、それが自然災害とどのように関係しているのかを考察する(知識・技能)。
- ② 日本列島において発生する様々な自然災害の発生メカニズムとそれが人間生活や社会へもたらす影響について考察する(思考・判断・表現)。
- ③ 学校所在地である千葉県松戸市において発生する自然災害について取り上げ、その要因について主に自然環境との関わりから理解するとともに、市民生活に与える影響について多面的に考察し、防災・減災へ向けた対応策について持続可能なまちづくり・くにづくりという観点から模索する(学びに向かう力、人間性)。

学習テーマ (実施時間)	主な学習内容	主な学習方法	学習形態
1. 日本列島の地形と自然災害 (1時間)	変動帯にある日本列島、プレートの運動がつくる山脈	資料読解、ワークシート作成、講義	個別
2. 日本列島の気候と自然災害 (1時間)	2つの気団と季節変化、台風、地域的な特徴と気候災害	資料読解、ワークシート作成、講義	個別
3. 地震・津波と土砂災害 (1時間)	地震と津波、地震と防災	資料読解、ワークシート作成、講義	個別
4. 火山と防災 (1時間)	火山の噴火、火砕流と泥流、ハザードマップ、ジオパーク	資料読解、ワークシート作成、講義	個別
5. 台風・雪害と防災 (1時間)	台風による被害、南西諸島と台風、雪による被害と対策	資料読解、ワークシート作成、講義	個別
6. 洪水と治水 (1時間)	洪水への対策、被害を軽減させる工夫	資料読解、ワークシート作成、講義	個別
7. 大都市の災害 (1時間)	大都市を遅く集中豪雨と災害、河川流出を減らす工夫、ヒートアイランド	資料読解、ワークシート作成、講義	個別
8. 松戸市の自然災害の特徴とその対策 (2時間)	松戸市の地形環境の特性、松戸市の自然災害、自然災害がもたらす影響、防災・減災へ向けた対応策、持続可能なまちづくり	資料読解、グループディスカッション、プレゼンテーション、ワークシート作成、講義	集団
9. 持続可能なくにづくりへ向けて (1時間)	日本の自然環境と自然災害との関係、防災・減災へ向けた様々な対応策、持続可能なくにづくり	資料読解、グループディスカッション、プレゼンテーション、ワークシート作成、講義	集団

学習テーマ：「持続可能なくにづくりへ向けて」

指導案

i. 本テーマの概要

本テーマは、前時の学習テーマ「松戸市の自然災害の特徴とその対策」で扱った「持続可能なまちづくり」を発展させ、より広い国家的規模のスケールで災害に強い社会のあり方を考えていくことを意図して設定した。授業に当たっては、本單元におけるこれまでの学習内容を総括する意味から「日本の自然環境の特性と自然災害との関係」「防災・減災へ向けた様々な対応策」について扱い、既習事項の確認を行う。その上で「持続可能なくにづくり」について参加者間で討議し、結論を見出し、発表するというアクティブ・ラーニングのスタイルでの授業展開を試みる。その際、土木学会・土木と学校教育会議検討小委員会が制作に関わった『防災まちづくり・くにづくり学習ワークブック』（以下、ワークブック）を効果的に活用していきたい。

ii. 本テーマのねらい

- ①資料分析、討論、まとめ、発表という一連の学習スキルを通して、日本の自然環境の特性とそれによって引き起こされる自然災害との関係について理解する。（知識）
- ②防災・減災へ向けての対応策について自助・共助・公助の観点から考える。（思考・判断・表現）
- ③①・②を踏まえて、災害に強い持続可能なくにづくりのあり方について提言する。（学びに向かう力・人間性）

発問	学習活動	指導上の留意点	教材
<ul style="list-style-type: none"> ・日本列島の自然環境の特徴とは？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書や資料集を参照し、地形環境と自然環境それぞれに区分しながら答える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項であるので、知識を確認する意味で数人の生徒を指名して発表させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 ・資料集
<ul style="list-style-type: none"> ・私たちは自然からどのような恩恵を受けているのか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書や資料集、ワークブックを参照し、自分たちの生活との関わりから判断しながら答える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項であるので、知識を確認する意味で数人の生徒を指名して発表させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 ・資料集 ・ワークブック pp.2-3
<ul style="list-style-type: none"> ・日本列島で生じる自然災害にはどのようなものがあるのか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書や資料集、ワークブックを参照し、地形災害と気象災害とに区分しながら答える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項であるので、知識を確認する意味で数人の生徒を指名して発表させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 ・資料集 ・ワークブック pp.4-7
<ul style="list-style-type: none"> ・自然災害は私たちに何をもたらすのか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループを編成し、グループごとにワークブックを参照しながら洪水に関わるウェビングマップ(地理的諸事象の相関関係図)を作成する。 ・グループごとにウェビングマップを作成して気づいたこと、感じたことを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェビングマップについてイメージを持たせるために簡単な例を板書する。 ・グループディスカッションが円滑に進むよう各グループに対し必要に応じてアドバイスをを行う。 ・時間の制約上、発表するのは少数のグループに限定する。 ・グループの発表に際しては、きちんと聴く姿勢を持ち、必要に応じてメモをとるよう促す。 ・ウェビングマップの作成を通じ、自然災害が生活面、社会面、経済面などにおいて様々な諸問題を引き起こすことを気づかせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークブック pp.8-10 ・模造紙 ・マジック

<ul style="list-style-type: none"> ・自然災害に対応するために私たちにできることとは？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークブックを参照し、自助、共助、公助に区分しながら答える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災・減災に当たっては、自助、共助、公助それぞれが必要不可欠であることを自分たちの生活経験上から再認識させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークブックp.11
<ul style="list-style-type: none"> ・災害に強い持続可能なくとは何か？具体的なビジョンを描いてみよう！ 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに災害に強い、持続可能という言葉から連想するキーワードを3つ設定する。 ・キーワードをもとに「災害に強い持続可能なまち」の実現へ向けての具体的な戦略をフローチャートの形で模造紙に描く。 ・グループごとに成果を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キーワードについて生徒がイメージを喚起しやすいように具体例を複数提示する。 ・フローチャートには一つ一つの戦略を段階的な流れに沿って示すことができるよう指示を出す。 ・グループディスカッションが円滑に進むよう各グループに対し必要に応じてアドバイスを行う。 ・アイデアを膨らませるために付箋の活用を促す。 ・アドバイスに際し、前時に取り上げた松戸の防災まちづくりの成果を参照するよう伝える。 ・ワークブックの該当ページを手掛かりにするよう伝える ・時間の制約上、発表するのは少数のグループに限定する。 ・グループの発表に際しては、きちんと聴く姿勢を持ち、必要に応じてメモをとるよう促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークブック pp.12-19 ・模造紙 ・マジック ・付箋
<ul style="list-style-type: none"> ・授業全体をふりかえってみよう！ 	<ul style="list-style-type: none"> ・各自で本日の授業全体をふりかえる意味で感想を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・終了しない生徒は宿題にし、次回の授業までに提出するよう指示を出す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシート

[事例3—生活圏の調査と地域の展望]

(専修大学松戸高校・泉貴久先生提供)

- 千葉県松戸市を事例に、野外観察と地形図の読図という従来型の学習と、社会参画を目的とした問題解決・政策提言型の学習とを組み合わせた身近な地域学習の授業実践プランを示す。
- 市民性育成へ向けた探究プロセスを踏まえながら、学校周辺地域における野外観察と地形図作業で培った地域認識を基盤に、地域問題の解決、地域政策への提言を目指したもの。
- 地域認識育成の授業は泉(2014)で報告済み。

泉貴久(2014):地理教育における社会参加学習の課題—学校周辺地域を対象とした授業実践を手掛かりに—。中等社会科教育研究, 32, pp.81-99.

千葉県松戸市を事例にした身近な地域調査学習の授業実践プラン

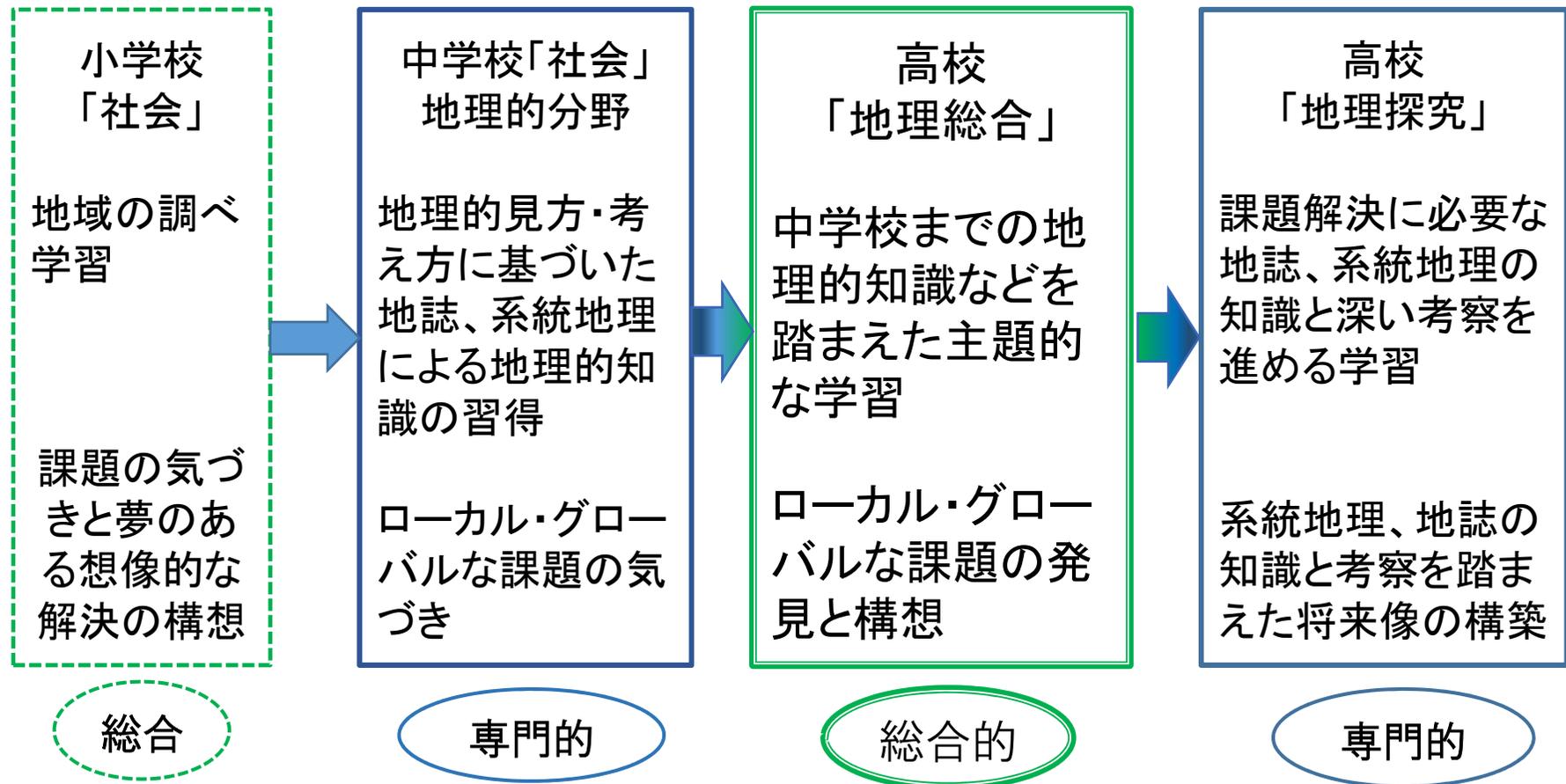
学習テーマ「足もとから考える地域の課題－松戸市への政策提言－」

（全13時間）

単元 目標	① 松戸市の概観について景観観察や地形図などの資料分析を通じて、地理的・歴史的観点から理解を深める（知識・技能）。 ② 松戸市が抱える諸課題について理解を深めるとともに、その解決策について多面的な視点から考察する。（思考・判断・表現） ③ 持続可能な地域社会の実現へ向けて何ができるのかを考える（学びに向かう力・人間性）。	
学習内容	配当時間	学習活動
松戸市の地理的・歴史的 특성	2時間	<ul style="list-style-type: none"> ・新旧地形図や統計資料を活用した作業課題を通じて、明治期から現代に至る松戸市の地域の変遷について考察し、理解を深める。
学校周辺地域のフィールドワーク	3時間	<ul style="list-style-type: none"> ・都市計画図をもとに学校周辺地域を中心に野外観察を行い、地域の特性を自然環境・社会環境の両面から理解する。 ・野外観察の成果を踏まえて、地域の抱える課題について発見する。
学校周辺地域における諸課題を考える	3時間	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスを複数の班に分け、グループごとに学校周辺地域の特性について良い点・悪い点とに分けて抱える社会的諸課題の背景・要因について野外観察の結果をもとに調査を行う。 ・調査結果を踏まえて、学校周辺地域を中心とした松戸市の抱えている社会的諸課題をグループごとに抽出する。 ・課題のもたらす背景・要因、周囲への影響を考え、解決策を提案する。
持続可能な地域づくりを模索する	4時間	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループが提案した課題の解決策を踏まえ、持続可能な地域とは何かを考え、理想的な地域像とそれを象徴するコンセプトをグループごとに提案する。 ・各グループが提案したコンセプトに基づき、持続可能な地域づくりの実現へ向けての段階的な戦略プラン立案する。 ・各グループが立案した戦略プランを全体に発表し、クラス全体で共有する。 ・各グループの戦略プランについて、行政の担当者（松戸市総合政策部政策推進課）より松戸市総合計画との関わりからコメントを頂き、地域のあり方について考える。
地域政策への提言	1時間	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートの作成を通じて、生徒各自が地域づくりにどのように関わっていくのかを具体的にまとめる。

小学校「社会」から 高校「地理総合」・「地理探究」まで

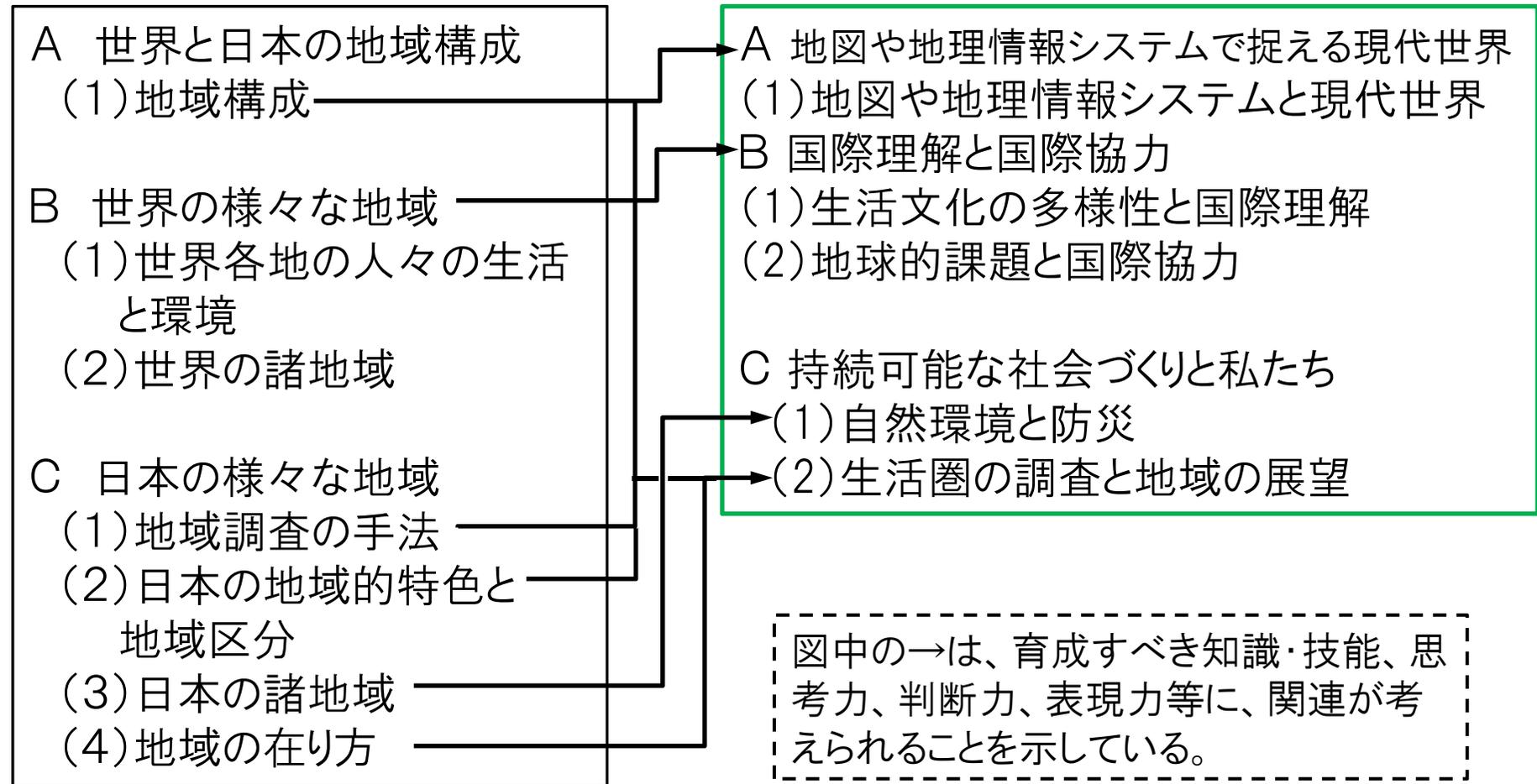
□ 地理教育のなかでの「地理総合」の位置付け



□ 中学校「社会」地理的分野との関連

次期中学校「社会」地理的分野の内容

「地理総合」の内容



(平成29年告示中学校学習指導要領 および同30年公表高等学校学習指導要領(案)をもとに作成)

次期中学校「社会」地理的分野の内容と「地理総合」の内容との関連

「地理総合」は

- 中学校での地理的な見方・考え方の観点を活かして**主題を設定した学習としての捉え**
⇒ 国際理解・国際協力、持続可能な社会づくり
- 中学校での地誌学習・系統地理学習を基礎とした**知識の活用**
⇒ 国際理解・国際協力、持続可能な社会づくり. とくに防災などの実用化
- 中学校での地図活用を踏まえた**地図・地理情報システムの学び**
⇒ より深い活用(調べる、分析する、解釈する)と、その後の学習への活用

□ 選択科目「地理探究」(3単位)との関連

➤ 「地理探究」の目標(「地理総合」との相違点)

(1)…世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解するとともに、…

・「地理総合」(1)…世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、

(2)…に着目して、系統地理的、地誌的に、概念などを活用して…

➤ 「地理探究」の内容

A 現代世界の系統地理的考察

- (1) 自然環境
- (2) 資源、産業
- (3) 交通・通信、観光
- (4) 人口、都市・村落
- (5) 生活文化、民族・宗教

B 現代世界の地誌系考察

- (1) 現代世界の地域区分
- (2) 現代世界の諸地域

C 現代世界におけるこれからの日本の国土像

- (1) 持続可能な国土像の探究

「地理探究」は

- さらに現実を踏まえて主題追究
- より深い理解と課題の探究

※この科目のまとめとして位置付け(「内容の取扱い」)

実施に向けて—いま準備すべきは何か？—

1. デジタル地図や地理情報システムを使う

- Google Mapや地理院地図で地域を眺める
学校周辺や史跡、観光地などを表示
- Google Mapや地理院地図で簡単な作業をする
空中写真や様々な地図の表示、簡単な計測など
- 簡易GISソフトやWebGISを使った事例をみる
機能や内容を紹介するHP、書籍などの閲覧・入手
- 簡易GISソフトやWebGISで簡単な地図をつくる
- データを集め、GISソフトやWebGISで地図をつくる

➡ 教育委員会主催の研修（法定研修・専門研修）、学協会主催の研修などへ参加する

2. 中学校「社会」地理的分野を**研究する**

- 中学校教科書で、「何を」学習しているかを知る
- 教育委員会HPなどで、「どう」学習しているか(学習指導案)を知る

3. 「歴史総合」や「日本史」、「世界史」との**連携を図る**

- 歴史の舞台を地理的にみると、どうみえる？
- 古地図や旧版地形図を使った地図指導の可能性は？
- 歴史的事象(過去の災害・防災への取組など)を含む地域調査の可能性は？

 各都道府県単位の社会科／地理歴史科研究会などに参加する

4. 地形図やハザードマップを持って地域を歩く

- 学校の周辺には、どんな地形や植生が広がっているか？
- 学校の周辺は、どんな建物があり、どんな土地利用になっているか？
- 学校の周辺では、どんな災害が予想され、どんな対応が考えられているか？



フィールドワークを取り入れた教育委員会主催の研修（専門研修）、学協会等が主催の研修（免許更新講習）などへ参加する

実りある必修修科目「地理総合」に!

➤生徒を“地理嫌い”にしない「地理総合」

- 必修修科目ゆえに、生徒にとって魅力のない「地理総合」では、地理嫌いが増える可能性。
- 担当する教員が「地理総合」を教えることに魅力を感じる(苦痛を感じない!?)内容や指導方法が必要。

➤地理関係者の総力を結集した「地理総合」づくり

- 研究成果の教材化や授業事例の開発と提供
- 研修の開催や積極的な支援
- 支援の主体となる地理学連携機構による「地理教育フォーラム」の設立(2018年3月)

ご清聴有り難うございました。

以下、ハイパーリンク用スライド

○2006年秋 世界史未履修問題

公立・私立高校(663校)中 7.2%で未履修

うち 地理歴史科 42.0%(世界史76.1%)

公民科 9.7%

情報科 22.6%

(89年版学習指導要領実施の94年度調査)

⇒98年15.4% ⇒2003年度78.7%に拡大

(文部科学省「高等学校等の未履修開始年度等について」より)

問題の背景

①大学入試 ②地歴科授業時数削減

③世界史学習の負担感

富山県立高岡南高校(藤田伸雅校長、高岡市戸出町)で、地理歴史教科を選択制としたため、3年生197人全員が卒業に必要な科目を履修していなかったことが24日、わかった。同校は県教委とともに卒業資格取得のための方策を協議している。

同校や県教委によると、学習指導要領では世界史、日本史、地理の3教科から2教科を選ぶことになっていて、世界史は必修となっている。しかし、同校では昨年春ごろ生徒から「受験に必要な教科だけにしたい」との声が上がり、昨年度は3教科から1教科だけの

地理歴史、選択制にしたら

必修もれて卒業できない

富山の高校、補習検討

選択でも可能とするようにした。その結果、世界史を履修していないなど、3年生全員が卒業資格を取得していなかったという。

県教委は全員が卒業資格を得られるよう、冬季講習などで集中的に補習を行うことなどを検討している。

藤田校長は「生徒に対し、申し訳なかった。十分説明してできるだけ負担にならないよう対応していきたい」と話している。

文部科学省によると、履修には50分の授業が70回必要で、時間数を確保できれば卒業は可能という。

